

【命の水】

沖繩県 黒島中学校

一年

島仲 しまなか 美來 みらい

台風で大規模停電や水不足を報じるニュースを家族で見ているとき、「大変だな。沖縄に台風がくるのはまた違う被害が出ているね。水も出ないところもあるらしいよ。」と父が心配そうに言います。沖縄には毎年のように台風が来ます。そのたびに家でも学校でも対策をしますが、ニュースで見ると大変な状況はあまり目にしたことはありません。これ以上被害が広がらないようにと願いながらニュースを見ていると、

『黒島の人も水では苦労しているんだよ。聞いたことあるか。』と父に聞かれました。

私は、正直これまで、島の水資源がどんな状況でどんな苦労があったかなど聞こうとしたり、知ろうとしたことはありません。しかし、今回、台風で水に困っている人達を画面を通して見たとき改めて水の存在について考えてみようと思いました。

私たちの住む竹富町は、西表島を除いて昔から水資源に恵まれず、昔は天水を頼り、干ばつの時には西表島や石垣島から飲料水を運搬するなど厳しい生活を強いられてきたそうです。

朝起きて歯磨きする時、ご飯を作るとき学校で技術の時間に蒔いた野菜の種に・・・と水を使う機会を改めて考えてみると本当に多くあります。私は水を使うと時に困った記憶はほとんどありません。なぜなら蛇口をひねればいつでも使えるのが「水」だと思っているからです。今の生活からは昔の様子子が全く想像できません。しばらくして私は、島にある石碑が存在することを知りました。そして私は実際に水を運ぶ大変さを体験しようと、家から少し離れた海まで歩き、水をくみ家に運ぶ作業をやってみました。一往復しただけで、「もうやりたくない」「水が揺れて歩きづらい」「疲れる」とすぐにへこたれてしまいました。昔の人はこの大変な作業を毎日くり返し生活していたのかと思うと、先人たちの努力が今の私たちの命をつないでいるのだと感

じました。

私の住む島にある「水道記念碑」について調べてみると、海底送水を記念し一九七五年に建立されたそうです。当時、総理府総務長官だった山中貞則さんという方が、島民の為に力を尽くしてください、西表島からの海底送水が実現したそうです。

生まれてからずっとこの小さな島に住んでいます。私はその記念碑や山さんの存在を知りませんでした。石碑には、水に苦しんだ島民たちが神様に水を願う言葉が刻まれています。

また、記念碑には次のような言葉も書かれています。「飲水恩源」という言葉で中国の言葉です。意味は、「水を飲むときは、井戸を掘った人の事を忘れてはならない。(感謝を忘れない)」

父の話聞いたこと。記念碑の存在を知った今、この言葉の重みを感じられます。

先人達がつないでくれた「命の水」を絶やすことなく次へつなげるためにも、大切に使うことはもちろん、水資源の歴史や石碑にこめられた想いを忘れずにいたいと思います。